

健康管理アプリを用いた保険薬剤師による糖尿病患者フォローアップが  
シックデイの適切な対応に繋がった 1 例

1) 総合メディカル (株) そうごう薬局 天神中央店、2) 学術情報部、  
3) 総合メディカル (株)

橋口 知香<sup>1)</sup>、郡司 清志<sup>1) 2)</sup>、中村 泰朗<sup>1)</sup>  
浅野 陽香<sup>1)</sup>、杉野 千尋<sup>1)</sup>、石原 孝<sup>3)</sup>

【目的】そうごう薬局天神中央店では、糖尿病患者に対して、スマートフォンで写真を撮るだけで食事を記録できる健康管理アプリ『カロミルアドバイス』（以下、カロミル）を利用した食事療法の支援を行っている。カロミルは患者が撮影・登録した食事を薬局側でも確認でき、AI 技術を用いて薬剤師から栄養バランスを考えた食事のアドバイスを行うことができる。今回はカロミルのチャット機能を利用して、服用期間中のフォローアップ時にシックデイに対する服薬指導を行い、患者の適切な対応に繋がった事例を経験したので報告する。

【事例】40 代男性、2 型糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症、糖尿病合併症進展あり（大血管障害、網膜症）。X 年 9 月 8 日来局時に、かかりつけ薬剤師として支援することを説明し、同席した配偶者（食事に関するキーパーソン）にカロミルを紹介した。X 年 9 月 17 日にチャット機能で配偶者より、食事と薬の飲み合わせに関する相談があり服薬指導を実施。その後、双方向にコミュニケーションをとることにより、患者自らの食事記録の継続に繋げることができた。X 年 10 月 4 日に上気道炎の罹患を聴取し、体調と食事量（糖質量）などを確認した。シックデイ時の対応を含め、今後の症状や食事量に合わせた服薬方法について指導した。フォローアップした内容を糖尿病専門医の主治医にトレーシングレポートにて報告した。

【結語】かかりつけ薬剤師が患者の日々の食事内容の画像情報を共有した上で行えることや、患者が糖尿病治療薬や生活上での疑問に関する相談を気軽に行えるなどのアプリのメリットを活用し、今後も糖尿病療養指導士としてより患者に寄り添った指導を行っていきたいと考えている。また、チャット機能は患者フォローアップの手段の選択肢の 1 つとして有用であると実感した。